

和歌山県内経済情勢報告

(令和8年7月判断)

1. 総論

【総括判断】「緩やかに持ち直しつつある」(判断を据え置き)

項 目	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回 比較
総括判断	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→

(注) 令和8年7月判断は、前回8年4月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

個人消費は、緩やかに持ち直しつつある。生産活動は、足踏みの状況にあるほか、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっているなど、全体としては、緩やかに持ち直しつつある。

【各項目の判断】

項 目	前回 (8年4月判断)	今回 (8年7月判断)	前回 比較
個人消費	緩やかに持ち直しつつある	緩やかに持ち直しつつある	→
生産活動	足踏みの状況にある	足踏みの状況にある	→
雇用情勢	持ち直しのテンポが緩やかになっている	持ち直しのテンポが緩やかになっている	→
設備投資	7年度は前年度を下回る見込み	8年度は前年度を上回る見込み	↗
企業収益	7年度は増益見込み	8年度は増益見込み	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、緩やかに持ち直していくことが期待されるものの、中東情勢や金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに持ち直しつつある」

百貨店・スーパー販売は、節約志向の高まりにより衣料品や身の回り品の売上げが減少している一方、飲食料品はおおむね横ばいとなっている。

コンビニエンスストア販売は、客単価の上昇の影響に伴い、売上げは堅調に推移している。

ドラッグストア販売は、日用品や季節商品の需要が堅調となっており、売上げが増加している。

ホームセンター販売は、自転車関連商品やエアコンの売上げが好調であり、前年の売上げを上回っている。

家電大型専門店販売は、エアコンや冷蔵庫などの売上げが好調であり、前年の売上げを上回っている。

乗用車の新車登録届出台数は、普通車・小型車、軽自動車ともに前年を上回っている。

観光動向は、一部観光地において前年に観光客数が増加したことの反動がみられているものの、県内主要観光地において観光客数が堅調に推移している。

(主なヒアリング結果)

- メーカーによる値上げが一巡してきた印象があり、1点単価の伸びが落ち着いてきている。その影響もあり、買上げ点数は増加傾向にある一方、他業態との競合もあってか、客数は伸びていない。(百貨店・スーパー)
- 物価高による節約志向の高まりの影響もあり、衣料品や身の回り品、化粧品などの売上げが低調となっている。一方で、イベント開催時の集客は好調であり、食料品の売上げは堅調に推移している。(百貨店・スーパー)
- 節約志向の高まりにより、大容量の日用品の売行きが良い。(ドラッグストア)
- ティッシュやトイレトペーパーなどの紙製品を中心に日用品の売上げが好調となっているほか、道路交通法改正の影響もあってかヘルメットなどの自転車関連商品の売上げも好調となっている。(ホームセンター)
- 値上げの影響などにより、客単価が上昇している。また、2027年度からのエアコンの省エネ基準強化を見据え、現行の低効率モデルの需要が高まったことから、エアコンの売上げは前年を大きく上回っている。(家電量販店)
- ファミリー層向けの車種をはじめとして販売は好調。また、自動車の購入時に課税される環境性能割が3月末で廃止になったことから、取得費用を抑えるために、4月以降に登録する動きがみられた。(自動車販売店)
- イベントや観光列車の影響により、国内観光客、外国人観光客ともに増加しているほか、例年であれば宿泊予約に余裕がみられる時期でも、今年は平日休日間わず予約がほぼ埋まっている。(公共団体)
- 外国人観光客について、中国人観光客は引き続き減少傾向にある一方、円安の影響もあり、その他の地域からの訪日客は堅調に推移している。(観光関係団体)

■ 生産活動 「足踏みの状況にある」

鉱工業生産指数でみると、「機械工業」などは上昇しているものの、「鉄鋼業」や「化学工業」などは低下しており、生産活動は、足踏みの状況にある。

(主なヒアリング結果)

- 国内向けの受注は前年並みで推移している一方、中国向けについては、中国国内の景気低迷や現地メーカーとの競合により、引き続き低調となっている。(生産用機械)
- 気温上昇の影響や職場における熱中症対策を強化する動きがみられることから、空調関連製品の需要が増加しており、生産量は前年同期を上回る水準となっている。(はん用機械)
- エネルギー関連製品については、中東向けの受注が減少しているものの、全体としては堅調に推移している。一方で、自動車関連製品については、中東情勢の影響で自動車の輸出が停滞しており、需要環境は引き続き厳しい状況にある。(鉄鋼)
- 製品によって生産量の増減はあるものの、ハンドソープなどの生産量が増加していることなどから、全体の生産量は堅調に推移している。(化学)
- 前期の電子材料関連製品の需要増加の反動もあって、今期の生産量は減少しているものの、半導体分野が好調であることなどから、中長期的には需要は堅調に推移すると見込んでいる。(化学)
- 海外需要が増加していることに加え、国内需要についても、新商品の発売の効果もあって増加しており、全体として好調となっている。(食料品)

■ 雇用情勢 「持ち直しのテンポが緩やかになっている」

有効求人倍率は、低下傾向にあるものの、新規求人数は、おおむね横ばいで推移している。また、法人企業景気予測調査（令和８年４～６月期調査）の従業員数判断BSIは、「不足気味」超となっていることなどから、雇用情勢は、持ち直しのテンポが緩やかになっている。

（主なヒアリング結果）

- 一部地域において観光客数が減少していることなどから、「宿泊業、飲食サービス業」の一部の企業では、求人を出し控える動きがみられている。（公的機関）
- 人手不足感があり、求人を出しているが、新卒採用、中途採用ともに思うように人材を確保できていない。（生産用機械）
- 足下では人員を適正に確保できているが、少子化の進展に伴い、将来的な技術系人材の確保が課題となっているため、採用区分の拡大を図るなどして人材確保に取り組んでいる。（鉄鋼）
- 定年退職のほか、転職などを理由とした若年層の離職が目立っており、正社員の人手不足の状態が継続している。新卒採用については内定辞退者も多く、今後も採用活動を継続する必要がある。（百貨店・スーパー）
- 中堅層・ベテラン層の不足が顕在化しているため、今後は即戦力となる人材の確保に向け、中途採用の強化に取り組む方針である。（建設）
- 域内の大型宿泊施設では、人手不足を解消するため、外国人採用や人材マッチングサービスなどの新たな採用方法を試行している。一方、小規模宿泊施設では、雇用改善が進んでいない状況である。（観光関係団体）
- 大幅な賃上げを行ったとしても、大企業と比較すると給与水準が見劣りするなど、採用活動への効果が限定的と考えられることから、賃上げマインドが低下している県内企業も見受けられる。（経済団体）

■ 設備投資 「８年度は前年度を上回る見込み」

法人企業景気予測調査（令和８年４～６月期調査）でみると、８年度の設備投資は、全産業で前年度を上回る見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「８年度は増益見込み」

法人企業景気予測調査（令和８年４～６月期調査）でみると、８年度の経常利益は、全産業で増益見込みとなっている。産業別では、製造業、非製造業ともに増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設 「前年を上回っている」

新設住宅着工戸数（３ヶ月後方移動平均値）でみると、前年を上回っている。内訳でみると、持家、貸家、分譲いずれも前年を上回っている。

■ 公共事業 「前年を下回っている」

前払金保証請負金額（年度累計額）でみると、前年を下回っている。内訳でみると、独立行政法人等で前年を上回っているものの、国、県、市町村で前年を下回っている。

■ 企業倒産 「前年を上回っている」

倒産件数は、前年を上回っている。

■ 景況判断 「「下降」超となっている」

法人企業景気予測調査（令和８年４～６月期調査）の景況判断BSIでみると、全産業で「下降」超となっている。

産業別では、製造業、非製造業ともに「下降」超となっている。

規模別では、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「下降」超となっている。